

# ‘14地域のSTORY’

～ vol.7 粉浜 地域のきずなの象徴～運動会を今に引き継ぐ これまでも。これからも。

万葉の時代から「粉浜」と呼ばれていた海岸の名を由来に持つ粉浜地域は、住吉大社の門前町として栄えてきました。明治初期まで2つの村に分かれ、学校もそれぞれに作られていましたが、1877年にこの2校が統合し長尾小学校が創立。今の粉浜小学校と北粉浜小学校につながっています。当時ほとんどが畑の農村だった一帯は、その後の工業化の進展により宅地化が進み、大正時代の終わりごろには多くの住宅が建てられました。玄関先に水屋(台所)がある長屋住宅は当時としては斬新なもので、建築史上貴重なものとして粉浜1・2丁目にわずかながら今もその姿を留めています。

集団疎開など戦時中の苦難を経て、迎えた敗戦。「戦争が終わって、暗くしているより、明るくしよう」と1950年に町会対抗の運動会が始まりました。

戦後の、まだものが無い時代。鍋や皿などの日用品が景品だったそうです。写真は1959年。戦後の傷も少しずつ癒え、明るい時代を謳歌する様子がうかがえます。



この運動会は今、「粉浜まつり」と名を変えずと続いています。粉浜の皆さんは誇らしげにまちづくりに取り組んでいます。



粉浜まつり開会式の様子

## さざんか粉浜活動協議会 久保道伸会長(写真中央)

●生まれも育ちも粉浜です。戦後のベビーブーム世代でとにかく子どもがいっぱい。小学校の頃なんて2000人ぐらいいたから、先生も忙しくてやんちゃし放題(笑)。

粉浜の初代青少年指導員として制度の創成期から活動し、今に至ります。粉浜で生まれ育ったから地域への思いは強いです。自分が「こうだ」と思う地域を実現したい。もっともつまちを活性化しようといういろんなアイデアが湧いてでてくるんです。周りのみんなが困るぐらい(笑)。

## 区青少年指導員連絡協議会 粉浜校下代表 中山隆嗣さん(写真左)

●平成14年に粉浜に。その時、朝昼晩とどんどころか様子をみて回って、落ち着いた静かな環境と、たまたま見かけた盆踊りの雰囲気もよくて、ここならと思えました。青少年指導員になったきっかけは、町会の手伝いをしているうちに自然にそうなった感じです。

次を担っていただきたい方に、この仕事

のやりがいを伝えるのが難しい。大変そうと思う人は多いが、そうじゃないよ、本当にいい経験だよ、ということ伝えたい。

## 区子ども会育成連合協議会 粉浜校下代表 柴田千恵子さん(写真右)

●子どもが小学校にあがることをきっかけに粉浜に。その後高齢の母を呼び寄せることになり、すごく不安はあったのですが、このまちなら大丈夫だと思えたんです。

子ども会役員を頼まれた時は、仕事をしていたから大変だったけど、「できる範囲で」と言っていたら、あとはみんなに手伝ってもらいながらやりました。やがて手伝う側に回って長くやっています(笑)。

## ◆粉浜よさこい祭りやります!!

現在は少子高齢化で町会対抗の運動会は難しくなったので、模擬店や子どもが楽しめるウォークラリーなどを取り入れた粉浜まつりとして模様替え。毎年3500人が参加しています。次は商店街を盛り上げようと、よさこい祭りを計画しました。春にやりますのでぜひご参加ください!



## 各地活協では、平成30年度事業計画の策定が始まっています!

大阪市では、地活協(※地域活動協議会。下記の説明も併せてご覧ください。)が担う役割の性質から「準行政的機能を有する団体」と位置づけ、財政的な支援(補助金の交付)を行っています。

各地活協は、この補助金を地域課題の解決やまちづくりに有効に活用するため、盆踊り等のイベントやふれあい喫茶をはじめとする見守り活動等、次年度の取組みを計画します。これが事業計画です。

事業計画は、各地域のさまざまな団体から選出された運営委員の皆さままで話し合い、さまざまな意見を取り入れながら策定される、来年度の地域活動内容を決めるとも重要



なものです。

各地活協のこれまでの事業計画や事業報告は、区役所のホームページや各地域の広報紙等にも掲載されています。

お住まいの地域でどのような地域活動が実施されているかご興味のある方はぜひご覧ください。



【問合せ】住之江区まちづくりセンター  
☎6654-5017

地域の行事など各地域活動協議会のことはこちら→



**地活協とは** 地域活動協議会の略称。地域活動協議会は、おおむね小学校区単位で、連合町会やPTA等のさまざまな団体が皆で一緒にまちづくりに取り組んでいくための仕組みです。住之江区の地活協は、「〇〇地域活動協議会」、「さざんか〇〇協議会」の名称で活動しています。